

各関係機関長 殿
病虫害防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

平成28年度農作物病虫害発生予察情報について

平成28年度農作物病虫害発生予報第11号を発表したので送付します。

平成28年度農作物病虫害発生予報第11号

平成28年12月2日
徳島県

I. 野菜

冬春トマト

疫病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少ない(前年より少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が11.7%、発病度が1.2)。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 窒素質肥料を過用すると茎葉が軟弱となり発生しやすくなるので、肥培管理に注意する。

(2) 多湿環境は発病を著しく助長するので、施設内が過湿にならないように十分換気を行う。

(3) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。

(4) 病原菌は気孔から侵入するので、薬剤散布は気孔の多い葉の裏側を重点的に行う。特に、下葉には丁寧に散布する。

(5) 病原菌が侵入してからごく短期間で発病するので、発生を認めたら散布間隔を短縮して、集中的に薬剤散布を行う。

コナジラミ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では、発生圃場率が50.0%で、平年(33.0%)よりやや高く、寄生葉率も7.0%で、平年(2.0%)に比べ高い。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。薬液は葉裏にも十分付着するように丁寧に散布する。

冬春ナス

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並),発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では,発生圃場率が42.9%,発病葉率が 3.3%で,平年(24.6% 0.8%)に比べやや高い。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生が多くなってからでは防除が困難になるので,初期防除に努める。
- (2) 罹病葉は早期に圃場外に持ち出し,病原菌密度の低下に努める。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので,同一系統薬剤の連用は避ける。

すすかび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で,発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では,発生圃場率が57.1%で,平年(26.6%)に比べやや高いが,発病葉率は 1.4%で平年(1.1%)並の発生である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 罹病葉は伝染源になるので,できるだけ早く摘み取って,ハウス外で処分する。
- (2) 発生が多くなると防除が困難になるので,初期防除に努める。薬液は下葉の葉裏にも十分付着するように丁寧に散布する。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので,同一系統薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年より少ない)で,発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では,発生を認めていない(平年同時期は,発生圃場率が 2.8%,寄生葉率が 0.1%)。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので,初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので,薬液は葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

タバココナジラミ

1) 予報内容

発生量 平年並~やや多く(前年並),発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では,発生圃場率が85.7%で,平年(47.6%)に比べやや高いが,寄生葉率は 3.3%で,平年(3.2%)並の発生である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので,初期防除に努める。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない),発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では,発生を認めていない(平年同時期は,発生圃場率が 8.3%,寄生葉率が 0.1%)。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので,初期防除に努める。ハダニ類はほとんど葉裏に寄生しているので,薬液は葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

ミナミキイロアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では、発生圃場率が42.9%、寄生葉率が4.7%で、平年(78.2%, 12.2%)に比べやや低いが、被害果率は1.4%で、平年(1.0%)並の発生である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

アブラナ科野菜共通

黒腐病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月前半のキャベツ、ブロッコリー、カリフラワーズの巡回調査では、発生圃場率が35.0%、発病度が2.1で、平年(30.0%, 2.1)並の発生である。なお、11月後半の巡回調査では、発生圃場率が25.0%、発病度が1.6であった。

(2) 12月1日発表の1か月予報では、平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、発病前から定期的に薬剤を散布して予防する。特に強風雨の後はできるだけ速やかに薬剤散布を行う。

(2) 害虫による食害痕も病原菌の侵入口となるので、害虫の防除も確実に行う。

(3) 被害残渣は圃場外に持ち出し、適切に処分する。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「多」

2) 予報の根拠

(1) 11月前半のハクサイ、キャベツ、ブロッコリー、カリフラワーズの巡回調査では、発生圃場率が73.9%、寄生株率が22.7%で、平年(58.9%, 12.4%)に比べやや高い。なお、11月後半の巡回調査では、発生圃場率が60.9%、寄生株率が21.0%であった。

(2) 12月1日発表の1か月予報では、平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

コナガ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月前半のハクサイ、キャベツ、ブロッコリー、カリフラワーズの巡回調査では、発生圃場率が17.4%、10株当たり寄生幼虫及び蛹数が0.3頭で、平年(19.9%, 0.4頭)並の発生である。なお、11月後半の巡回調査では、発生圃場率が30.4%、10株当たり寄生幼虫及び蛹数が0.2頭であった。

(2) 12月1日発表の1か月予報では、平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。葉裏に生息しているので、薬液は葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (2)薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

冬春ホウレンソウ

べと病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1)11月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が 5.5%, 発病度が 0.1)。
- (3)12月1日発表の1か月予報では、平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1)県内では、べと病菌レース13による発病が確認されているので、レース13以上に抵抗性を持つ品種を利用する。作型等の関係で作付けできない場合には、薬剤による防除を徹底する。
- (2)平均気温が8~18℃で曇雨天が続くと、多発しやすい。発生が多くなると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤は予防的に、また下葉や葉裏にもよくかかるように丁寧に散布する。
- (3)罹病株を圃場に放置すると伝染源になるので、発病株は見つけ次第抜き取って速やかに処分する。
- (4)葉が繁茂して軟弱になると被害が多くなるので、肥培管理に注意する。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年より少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1)11月後半の巡回調査では、発生圃場率が16.7%, 1株当たり寄生虫数が0.0頭で、平年(35.9%, 0.3頭)に比べやや低い。
- (2)12月1日発表の1か月予報では、平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2)薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。
- (3)アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬剤が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

冬春イチゴ

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少ない(前年より少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1)11月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が 8.0%, 発病葉率が 0.5%)。

3) 防除上注意すべき事項

- (1)発生が多くなってからでは防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2)罹病葉は伝染源になるので、見つけ次第圃場外に持ち出し、病原菌密度の低下に努める。
- (3)古葉は早めに除去し、薬剤が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。
- (4)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で, 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では, 発生圃場率が28.6%, 寄生株率が 2.9%で, 平年(31.4%, 4.8%)並の発生である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので, 初期防除に努める。
- (2) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので, 同一系統薬剤の連用は避ける。
- (3) アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので, 薬剤が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で, 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では, 発生圃場率が35.7%, 寄生葉率が 4.9%で, 平年(49.9%, 6.6%)並の発生である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので, 初期防除に努める。
- (2) ハダニ類は葉裏に寄生しているので, 薬剤が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので, 同一系統薬剤の連用は避ける。

II. その他

- 薬剤の使用にあたっては, 必ず農薬ラベルの記載事項を遵守して下さい。

発生量の表示

発生程度 : 甚 > 多 > 中 > 少 > 無

発生量 : 多い > やや多い > 並 > やや少ない > 少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病虫害防除所

URL : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

- 病虫害の発生予察情報, 発生状況, 防除法等をお知らせしています。